人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	各教科等における特徴的な指導の実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

岐阜県下呂市

○学校名

下呂市立下呂小学校

○学校のＵＲＬ

http://www.gero-j.ed.jp/02school/each/2013/gero-e/index.html

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各２学級、　**【特別支援学級】**３学級、　**【合計】**　１５学級

○児童生徒数

【全児童数】３４０人（平成２５年５月１日現在）
（内訳：１年生４２人、２年生５５人、３年生５５人、４年生５０人
５年生６２人、６年生７６人

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】◎自ら求め、心豊かに生きぬくたくましい子
【人権教育の重点目標】
・思いやりの心をもち、正義に向かって仲間と共に行動する子を育てる。

○人権教育にかかる取組の全体概要

【人権教育推進の重点】
・教育活動全体を通して人間尊重の精神を大切にし、差別や偏見を察知する力と自分の心の中にある偏見や差別的な見方を改めようとする力を育てる。
・偏見や差別を許さない態度を育てる。

【学校のミッション】　**「下呂小を美しい学校にする」**

〈学ぶ姿の美しい学校〉 （聞き名人・話し名人）	**〈心の美しい学校〉** （あいさつ名人）	**〈環境の美しい学校〉** （そうじ名人）
①教科の本質に立ち、人権教育の観点を明確にした授業づくり ②授業における言語活動の充実を図った「なかま学び」の在り方	③自他を尊重し、仲間を大切にする美しい心根を広める場の設定 ア「あいさつ・掃除」を核とした仲間意識を高める工夫 イ 子供を認め、子供同士や親子でよさを分かち合う場の設定	

３．特色ある実践事例の内容

◆教科の本質に立ち、人権教育の観点を明確にした授業づくり

（取組のねらい、目的）

・学校の全教育活動を通じて、様々な人権問題に対する「認識力」「自己啓発力」「行動力」を育成し、確かな人権感覚が身に付くよう、教科指導（国語科、算数科）において、論理的思考力及び表現力の育成を重視した授業実践に取り組む。

〈課題〉

・発表する仲間のことを考えて聞くこと、筋道立てて仲間に分かりやすく話すこと、話し合って問題を解決することなどに弱さ

「行動力」　日常生活の中の人と人との関わりにおける差別事象に対して正しく行動することができる力

「認識力」　身近な生活の中にある不合理なことや差別事象を捉えたり、見抜いたりすることができる力

「自己啓発力」　生活を振り返り、自己の心の中にある偏見や差別的なものの見方や考え方を改めようとする力

〈国語科、算数科における思考や表現の重視〉

国語科：（読むこと）論理的に思考して想像するとともに、適切に表現したり正確に理解したりしながら豊かな言語能力を養う。

算数科：物事を数学的に捉え、見通しをもって、確かな根拠に基づき筋道立てて考え、適切に理解する力を育成する。

（取組の内容）

○「人権教育の観点」を明確にした授業づくり（国語科、算数科の場合）

〈ポイント〉　単元の目標・内容、本時のねらい等を明らかにした上で、単位時間における人権教育の観点を明確にする。

【場面】：学習過程のどの場面で指導するかを決める。

【育てたい力（認識力）】：身に付けさせたい「認識力」の内容を具体化する。

【そのための手だて】：発問や補助資料、働きかけなど指導援助を明らかにする。

〈実践事例〉

■国語科　第３学年「モチモチの木」の場合

【場面】

・気持ちを交流する場面において

【育てたい力（認識力）】

・登場人物の行動や会話、地の文に着目して、自分の体験とつなげたり、他の文と関連付けて読み取ったりすることを通して、豆太とじさまを助けたい気持ちや優しい人柄を想像することができる。

【そのための手だて】

・本文から読み取った登場人物の気持ちについて、根拠とした語や文だけでなく、そう思ったか理由も言えるようにする。

・「こわい」の具体を深く想像できるよう、豆太が泣いて走った理由を問い返す。

・じさまの深刻さを伝えるために、熊みたいにうなっていた様子を、声に出して表現するよう助言する。

■算数科　第６学年「分数のわり算」の場合

【場面】

・ペア学びで単位分数当たりの大きさを求める場面において

【育てたい力（認識力）】

・数直線を用いた考えと式を用いた考えの共通点を見いだすことができる。

【そのための手だて】

・数直線を用いた考えと式を用いた考えの順序を確かめることで、二つの考え方に共通点があることに気付けるよう助言する。

・二つの考え方について共通点を見いだせたことを価値付ける。

◆授業における言語活動の充実を図った「なかま学び」の在り方

（取組のねらい、目的）

・自分の考えを複数の児童と交流する「なかま学び」において、形態や話形、話し合いの仕方の工夫改善を図り、伝え合う力を高め、一人一人が大切にされる学習集団の育成を目指すこととした。

〈下呂小学校の授業の進め方〉

◎学年が変わっても同じ学び方ができ、授業への安心感が生まれる！

(1) 課題づくり：本時のねらいに即した学習課題をつくる。
(2) ひとり学び：個人で課題追究に取り組み自分の考えをつくる。
(3) なかま学び
① 小集団学び：互いの考えを伝え合い、自分の意見をはっきりさせる。
② 全体学び　：様々な意見を出し合い、見方や考え方を広げ、深める。
(4) 学習のまとめ：分かったこと、できたことを確認し習熟に取り組む。
(5) 学びの評価：「育てたい力」を身に付けたよさを価値付ける。

（取組の内容）

○ 人権教育の視点から捉えた「なかま学び」のよさ
・たくさん話せる　・考えがまとまる　・考えが深まる　・自信がもてる
・仲間のことがよく分かる

○「小集団学び」の形態（目的に応じた形態をとる）※言語活動の充実

〈二人学び（対面型）〉

〈二人学び（寄添い型）〉

〈三人学び（対面型）〉

〈三人学び（寄添い型）〉

〈グループ学び〉

〈スクランブル学び〉

◆自他を尊重し、仲間を大切にする美しい心根を広める場の設定（他の教育活動）

「めざせ！あいさつ名人」
・いつでも、どこでも、だれにでも、気持ちが伝わるようにあいさつできる。

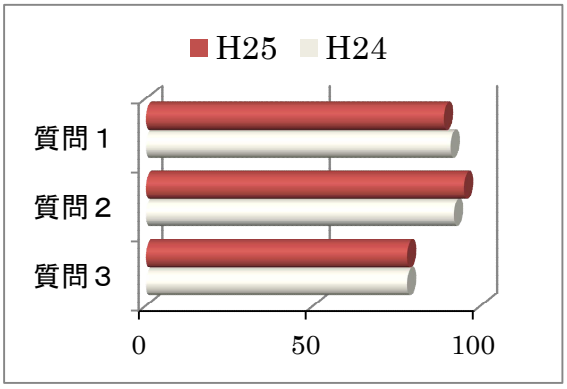
「もくもくそうじ、ペア学年そうじ」
・そうじの仕方を教え合ったり、互いの頑張りを認め合ったりしながらより美しい環境をつくる。

「ひびきあい集会」
・互いのよさを全校に広め、仲間や学級あこがれと向上心を高める。

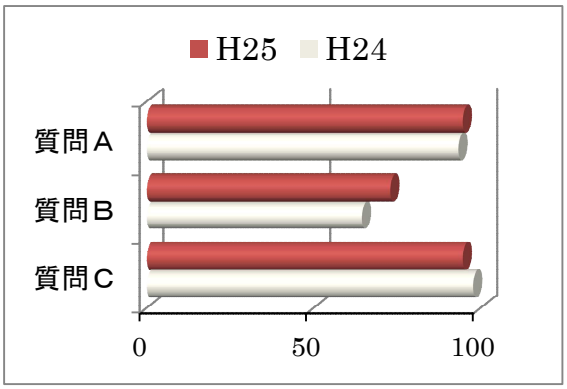
「美しい心（は・あ・と）の木」
・友達への励ましや感謝の気持ち、友達のよいところを互いに届け合う。

４．実践事例の実績、実施による効果

（取組の実績）○人権教育に関する児童の意識調査の結果と分析



〈下呂小児童学習アンケート〉
質問１「授業で友達に教えてもらってうれしかったことがありましたか」
質問２「授業で友達の話を聞いて分かったことがありましたか」
質問３「授業で困っている友達に声をかけたことがありましたか」
・多くの児童が授業における仲間との交流活動を好意的に受け止めており、自分から進んで働きかけようとする意識も着実に育ちつつある。



〈全国学力・学習状況調査質問紙調査〉
質問Ａ「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」
質問Ｂ「自分には、よいところがあると思いますか」
質問Ｃ「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」
・研究実践を始めた昨年度に比べて、自分のよさを認めたり、仲間のことを理解しようとしたりする意識が高まっており、自己肯定感や他者意識が育ちつつある。

（取組の実施から得られた知見）
○「人権教育の観点」を明確にした授業実践を継続することで、身に付けさせたい３つの力（「認識力」「自己啓発力」「行動力」）の育成を図る指導が充実する。
○ 話し方を身に付けるなど学び方指導や目的に応じた話合いの形態の工夫により、伝え合うことへの自信や仲間と学び合うことへ意欲が育まれる。
○ 単位時間の学習過程に児童相互の交流を位置付け、指導内容に応じた言語活動を工夫することによって一人一人の自己肯定感や他者意識が高まる。

５．実践事例についての評価

（取組についての評価、及びそう評価する理由）
・単位時間における「人権教育の観点」を明確にする際の手順やポイントを明らかにすることができるようになった。
・学習形態や言語活動の工夫など、児童相互の交流を効果的に位置付けことにより、自分の学習が仲間の学習に生かされることを実感でき、学ぶことへの喜びや満足感を味わうことで、自他を大切にしようとする気持ちを高めることができた。

（保護者や地域住民からの反応）
・保護者アンケートによると、我が子が学校生活を楽しいと感じていると答えた家庭が98%、我が子が学校の授業を分かりやすいと感じていると答えた家庭が95%であった。多くの保護者に人権教育に関する学校の取組が理解されている。
・児童だけでなく親子の間でも互いのよさを認め合う活動が広がり、励ましたり、感謝の気持ちを伝えたりすることが日常的に行われるようになった。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

下呂市立下呂小学校
教科の本質に立ち、本校の目指す人権教育の観点を明確にした授業づくりと、他の教育活動を通して人権意識を高めていく場を大切にした実践事例である。 全教育活動を通して、人権問題に対する「認識力」「自己啓発力」「行動力」を育成することが、確かな人権感覚を身に付けるために大切だと考え研究を重ねている。教科指導においては、論理的思考力・表現力の育成を重視し、人権教育の観点を明確にした授業、工夫された形態の「なかま学び」を大切にした授業づくりを進める中で、一人一人が大切にされ、お互いに認め合える学習集団が育成されてきている。授業を通して日常的に取り組まれているので、教職員・児童ともに人権意識の高まりにつながりやすい。